

裂孔原性網膜剥離術後における術前および術後の光干渉断層計の所見と最終視力との関連の研究に関する情報公開

1. 研究の対象

2013年1月～2018年1月に黄斑剥離を伴う裂孔原性網膜剥離により本院眼科で手術を受けた方

2. 研究目的・方法

黄斑剥離を伴う裂孔原性網膜剥離では、術後視力が不良な患者さんが多く見られます。その原因として、裂孔原性網膜剥離で黄斑が剥離すると視細胞が障害され術後に視力があまり改善しないことがあります。そこで、術前および術後最終観察時における光干渉断層計より得られた画像を用いて網膜外層の状態を観察し、視力との関連を調べます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：視力、眼圧、眼軸長、光干渉断層計画像、眼底写真、性別、年齢、病歴など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学医学部附属病院眼科

tel：052-741-2111

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科眼科学 岩瀬 剛